

「高島平地域都市再生実施計画」（素案）に対するパブリックコメントの
実施結果について

(1) 実施概要

実施期間：令和3年10月25日（月）から令和3年11月10日（水）まで 【17日間】

提出者：8名、意見項目：17件

(2) 意見の概要及び区の考え方（下線部は、公共施設機能に係る意見）

番号	意見の概要	区の考え方
1	公共施設機能の整備方針における付加機能として「 <u>板橋文学館</u> 」と「 <u>高島平中小劇場（300人規模）</u> 」を提案します。板橋・高島平は緑と文化の街です。高島平に文学館ができると、 <u>郷土資料館、美術館、赤塚城址、水車公園と合わせてバスで廻れる区の文化圏になります。中小劇場は幼児や児童、婦人発表の場、若者や高齢者の発表の場、コーラス、音楽、劇団の発表の場となります。</u>	「 <u>板橋文学館</u> 」そのものではありませんが、ご提案の趣旨に合致する方向で、 <u>知や文化に触れる場として図書館や地域センターの機能等を再整備し、歴史と文化の里・赤塚周辺地域にある施設等を含め、板橋の魅力</u> を周遊しながら楽しめるまちづくりを推進します。また、「 <u>高島平中小劇場</u> 」のご提案については、 <u>高島平の緑との調和を図りながら高島平区民館の機能等を再整備することによって、文化芸術の活動及び発表の場としてさらなる充実を図ります。</u>
2	区からの情報が建て替えを検討している分譲団地管理組合に速やかに届くよう方法をご検討ください。区と管理組合との意見交換、協議の場を設けてください。 <u>公共施設機能の整備方針の検討に管理組合も参加させてください。</u>	区からの情報は、これまでどおり、区報、掲示板、回覧板などの方法に加え、内容に応じて各町会・自治会にお伝えしてまいります。今回ご意見をいただいた建て替えを検討している分譲団地管理組合にも直接お知らせし、必要に応じて意見交換を行いながら検討を進めてまいります。
3	分譲住宅団地の再生と、区の高島平再生計画、UR都市機構の計画は関連性があり、相乗効果、費用削減のために計画を連携させることが重要と考えています。	各主体による検討や計画は相互に密接に関連していると認識しておりますので、今後の検討に際しても引き続き連携を図ってまいります。
4	高島平地域で、川崎市のような水素発電への取り組み、家庭廃油回収による再エネ発電、バイオマス	現時点では、水素発電、家庭廃油回収による再エネ発電、バイオマス発電に関する具

	<p>発電の取組を検討できないか。</p>	<p>体的な計画はございませんが、スマートエネルギーの観点から、多角的に検討を深めてまいります。</p>
5	<p>高島平地域の住民は、毎年夏を中心に、水害による浸水や河川氾濫の不安を抱えながら暮らしています。防災担当部署と連携して、緊急課題としての防災・減災を地域全体の優先課題として計画化し、これを早急に実施していただくよう強く要望します。</p> <p><u>具体的には、水害時も想定した避難拠点や活動拠点の設置を高島平全域で早急に計画化し、新たな施設等の建設が必要な重点地区に限定せずに着工、設置を急いでほしいです。</u></p> <p><u>インターネット機能をもったまとまった数のPCを公共施設に配置し、指導員を常設してほしい。災害関連の情報取得を始め、暮らしの維持にもインターネットの活用が不可欠となっています。しかし、とりわけ高齢者はこうした機器に慣れておらず、必要な情報の入手や人とのつながりもままならない実態があります。</u></p>	<p>高島平地域では、水害が想定される場合、浸水想定範囲外への水平避難を原則としています。</p> <p>様々なご事情から逃げ遅れてしまうことも想定されるため、防災担当部署との連携のもと、浸水深より高いところに避難できるような場所については重点地域に限定することなく検討を深めています。<u>公共施設機能についても、水害・震災対策を踏まえた配置や広場空間の利用を検討していきます。</u></p> <p>併せて、災害情報等の早期周知の方法として、SNS等の方法の拡充のみならず、人と人とのつながりを維持するため、日ごろの防災意識の向上や啓発に努めてまいります。</p> <p><u>また、インターネット等の新しい技術や価値を取り入れた生活の豊かさをどのように公共施設機能で実現させていくかについては、令和4年度から策定する予定の交流核形成まちづくりプランの検討の中で、引き続き検討を進めてまいります。</u></p>
6	<p><u>高島平地域の再生を行い成長していくには、住民を増やす必要があります。住民を増やすためのコンセプトは『住みたくなる街 高島平』。基本的な考え方は、住民の年代別要望に応えた環境づくりで流入人口を増やし、少子化対策・高齢者対策の両施設を充実させることです。住民の年代別要望をまとめ、年代別にまとめた要望を集約した地域をつくるのが望ましいと考えます。</u></p>	<p><u>区としても、連鎖的都市再生に伴う人口動向を踏まえ、「若い世代の定住化」と「健康長寿のまちづくり」を両立させるとともに、にぎわいの創出などによる交流人口の増加を図り、未来へつなぐまちづくりを推進してまいります。</u></p>
7	<p><u>「堤防を高くする」、「垂直避難できる場所を設ける」、「防災倉庫を設置する」、「毎年防災訓練を行う」、「飲用水と雑用水を確保する」など、防災に関する対策を行ってほしい。</u></p>	<p>高島平地域グランドデザインで掲げた4つのテーマの一つである「防災」については、防災担当部署との連携のもと、いただいたご意見も参考としながら、具体的な取組に向けて検討を深めてまいります。</p> <p><u>公共施設機能についても、水害・震災対策</u></p>

		を踏まえた配置や広場空間の利用を検討してまいります。
8	エリアごとの方針について、4・5丁目周辺にコンビニやスーパー等の店舗を誘致してほしい。また、4・5丁目戸建て住宅地について、現在の街並みや景観を維持できるよう、民泊に係る規制の検討やバリアフリー対策をしてほしい。	高島平四丁目、五丁目については、戸建て住宅地として良好な景観や街並みを維持しながら、日用品等の買い物について利便性を高めるような取組を検討してまいります。
9	保育所や診療所のある団地の建物はそのままにしてほしい。金銭的な余裕のない方も多いため、出来るだけ建物を残してほしい。	連鎖的に都市の再生を進めるに際しては、現在お住まいの皆様のご居住の安定を確保することが前提と考えますので、団地再生を実施するUR都市機構とも認識を共有しながら、相互に協力してまちづくりを進めてまいります。
10	長年にわたる計画として、全体としてはとてもよくまとまっていると思います。地域の課題に対して地元と連携して社会実験のような取り組みを実施できると、行政もきちんと地域のことを考えてくれていると感じてもらえると思います。例えば、商業施設まで遠い戸建て住宅エリアにおいて、モビリティの向上などで対応できる部分もあると思います。次世代モビリティの導入実験なども面白いと思います。	地域課題の解決に向けて、次世代モビリティ等の社会実験を行うことについては、今後も関係機関と連携しながら検討を深めてまいります。
11	できれば画一的なタワーマンションのような高層建築は避けていただきたいと考えます。タワーマンションは将来の建替の困難さも指摘されており、また人口が集中すると鉄道利用の利便性も損なわれます。大地震の時は上層階が孤立する危険性もあります。何より、他のタワーマンション林立地区と違いがなく、地域の個性が確立できません。	現在は、超高層の建物を林立させるような計画は想定しておりません。高島平地域は緑豊かで交通利便性があることが、住民アンケートでも意見があるところです。画一的なまちづくりではなく、緑豊かで既存の都市基盤を活かしながら、あらゆる世代が豊かに住み続けられる高島平らしきのあるまちづくりを進めていきたいと考えております。
12	エネルギーについて、地域冷暖房や水素は検討されていますか。清掃工場の廃熱利用によるエネルギーシステムのみならず、新河岸に下水処理場があるので下水汚泥の活用も考えられると思います。	高島平地域グランドデザインで掲げた4つのテーマの一つである「スマートエネルギー」については、関係部署や関係主体との連携のもと、いただいたご意見も参考としながら、多角的に検討を深めてまいります。
13	水害対策としての垂直避難に加え、清掃工場、公	ゲリラ豪雨等の内水氾濫被害対策としてのの

	園などの公共の土地の地下に災害時の貯水施設は建設できないものでしょうか。	地下貯留施設の整備については、現在区としての計画はございません。河川氾濫時の水害対策としては、引き続き、ハードとソフトの両面における検討を深めてまいります。
14	<p>交通ネットワークについて、高島平地区は平坦で高低差が少なく、既存の道路ネットワークも比較的充実していますが、現状ではまだ快適には走りません。広幅員の幹線道路では歩行者との分離の徹底が必要だと考えます。高島平は自動車、自転車、歩行者が皆安心して通行できる先進的なまちづくりを目指すべきです。</p> <p>また、高島平駅からの歩行者デッキについて、高島通りが一種のバリアになっており導入は大賛成です。早急に事業化に向けた検討が必要だと考えますが、駅前からけやき通りにデッキを建設すると圧迫感があり景観を損ねるのではないかと懸念します。施設の建替えに併せて街区側にデッキを敷設することは検討されているのでしょうか。</p>	<p>ご指摘の通り、自動車や自転車、歩行者が安心して通行できるまちづくりが重要と考えております。</p> <p>地域内の回遊性の向上や近接地域へのアクセス性向上につながる、幅広い世代に細やかな交通サービスを提供していくことが重要と考えております。</p> <p>また、高島平駅からの歩行者デッキについては、未整備の都市計画施設があります。高島平駅を中心とした交流核の形成に向けて、水害対策を考慮した上で、適切な形状、位置を検討してまいります。</p>
15	<p><u>公共施設機能の配置イメージについて、来年度以降URと共同で調査されるとのことで、その内容に注目します。個人的には再整備地区において区が単独で土地の所有権を有することは長期的に見た公共施設整備のために望ましいと考えます。</u></p> <p><u>A、B折衷の「Cパターン」として再整備地区【区：単独棟、UR：賃貸(新築)】、駅周辺エリア【区：UR賃貸(新築)内に合築、UR：賃貸(建替え後)、民間：にぎわい・ウェルフェア関連施設】というのは考えられないのでしょうか。再整備地区は区が将来も種地として所有しつつ、最短で公共施設の一部を整備しつつ、駅周辺エリアは住宅の建替えやにぎわい施設の導入の自由度が高くなるのではないかと考えるからです。</u></p>	<p><u>公共施設機能の配置イメージについては、再整備地区及び駅周辺エリアの合わせた範囲で整備するイメージとして、多数パターンがある中で、代表的なものとしてお示しさせていただきました。</u></p> <p><u>公共施設を UR 賃貸や民間施設と合築することで、にぎわいやまちづくりへの効果が高くなることも考えられることから、ご意見を踏まえ整備イメージの表現を修正させていただきます。</u></p> <p><u>今後、これらの整備イメージを踏まえ、公共施設機能の整備方針に定める基本的な考え方にに基づき、具体的な土地・建物・機能の配置について検討してまいります</u></p>
16	若年層の定住のための意見です。東京都心部への距離が近くアクセスが良いわけですから、その利点を積極的に生かすべきです。働く親のために保育施設の充実は不可欠です。医療で見落とされが	<p>高島平地域グランドデザインでは20代から40代に照準を合わせて、選ばれるまちづくりを目指しております。</p> <p>今回の素案においても、機能導入の方針の</p>

	<p>ちだと思われるのが、小児科の充実です。評判が良いと遠くからでも通院するケースも多々あります。腕の良い小児科医が開業しやすい環境を整えるべきだと考えます。</p> <p>また、あらゆる行政サービスがオンラインでできることも不可欠です。在宅勤務も増えていますが、テレワークのための貸しスペースを高架下の活用などで提供することも地域の魅力づくりのために有用だと考えます。</p>	<p>中で、暮らしやすく、住み続けられる地域のための機能として、切れ目のない子育て支援機能をあげており、そのなかで医療も想定しています。</p> <p>また、行政サービスとしてインターネット等の新しい技術や価値を取り入れた生活の豊かさをどのように公共施設機能で実現させていくかについては、令和4年度から策定する予定の交流核形成まちづくりプランの検討の中で、引き続き検討を進めてまいります。</p> <p>まちづくりにつながるような既存の区民活動の支援や企業との連携等を誘導するなど、コミュニティビジネスのスタートアップ拠点の形成に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。</p>
17	<p>素案は都市再生への導入イメージで、各政策のバランスがとれている、SDG sなどの新たな視点を踏まえるなど合理的な内容と思いますので、この計画の広報（PR）を希望します。科学・技術、制度・政策、経済・社会活動、物的資源、人的資源、自然・社会環境といった文明の全要素と、その働きや関係を明快に要約できれば、より多くの区民が、多岐にわたる政策や視点も体系的に分かりやすく理解できると思います。</p> <p>日本は現在、都市施設の老朽化、人口構成の高齢化、経済・社会の複雑化、喫緊の防災対策といった課題に直面しています。この『高島平地域都市再生実施計画』が、日本の都市再生に向けた先進的な政策事例となり、他の諸計画と共に“いたばしナンバーワン”の実現に大きく貢献できるよう期待します。</p>	<p>今回の素案を作成するにあたり、説明会やパブリックコメント、ホームページによる掲載など、広報に努めてまいりました。引き続き、内容が広く、皆様の目にとまるよう、取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>ご指摘のとおり、社会情勢の急激な変化や新たな思想や考え方がある中で、高島平地域が各要素からもあらゆる世代に選ばれ、安心・安全を基本とし、発展し続けるまちを目指して、まちづくりを進めていきたいと考えております。</p>